

ち、BAACローンはツー・ステップ・ローンであり、個人農家は当該ローンにおけるエンド・ユーザーであると言えます。OECFは1975年以来、1991年度までに11次にわたり、このBAACローンを供与してきました。各次のローンは、BAACの農業金融を支援する点については同じですが、その時々が開発ニーズを反映して、対象とするサブ・プロジェクト（エンド・ユーザーの資金使途）が変化してきています。今回、評価を実施した5次～7次については、具体的には以下のように資金使途が規定されています。

- 5次：稲作機械化振興プログラムの支援。即ち、農作業の効率化を図り米の増産を目指すための稲作用農業機械の購入資金。
- 6次：貧困撲滅計画の一環として、所得の低い農民層を対象にした主要農産物生産の振興を図るための農業機械の購入資金。
- 7次：米などの収穫後作業の効率性向上に加え、流通機構を改善するために必要な農業機械及び運搬機具の購入資金。

そして、実際の貸付に当たっては、更に細かく貸付要綱が決められています。例として7次における貸付要綱を紹介しておきましょう。市中銀行から借入を行った場合には、15%以上の金利が適用され、また融資期間も短くなることから、BAACローンは農民にとって非常に有利な条件となっています。

■事業概要

	借款契約締結年月	借款金額
BAACローン(V)	1981年4月	32億円
BAACローン(VI)	1983年9月	4億2000万円
BAACローン(VII)	1986年3月	10億1300万円

BAACローンは、同国の公的金融機関である農業・農業協同組合銀行（Bank for Agriculture and Agricultural Cooperatives, : BAAC）が農業協同組合及び個人農家を対象にして農業金融を行うに際し必要な資金を供与したものです。そして、OECFからBAACに対して供与された資金は、BAACを通じて彼らの審査を経て適格として認められた個人農家に対して転貸されます。即

借入適格者	年収5,411バーツ～30,000バーツの個人農家 (約30,000～180,000円)
対象作物 対象品目	米・トウモロコシ 米→脱穀機・耕耘機・農業用トラック トウモロコシ→脱粒機・小型トラクター・農業用トラック
融資期間	15年間（内、据え置き期間5年以内）
金利	年率9.8%
融資比率	所要資金の80%以内

このような貸付要綱に従ってBAACが適格と認めたサブ・プロジェクトは、5次～7次を合わ

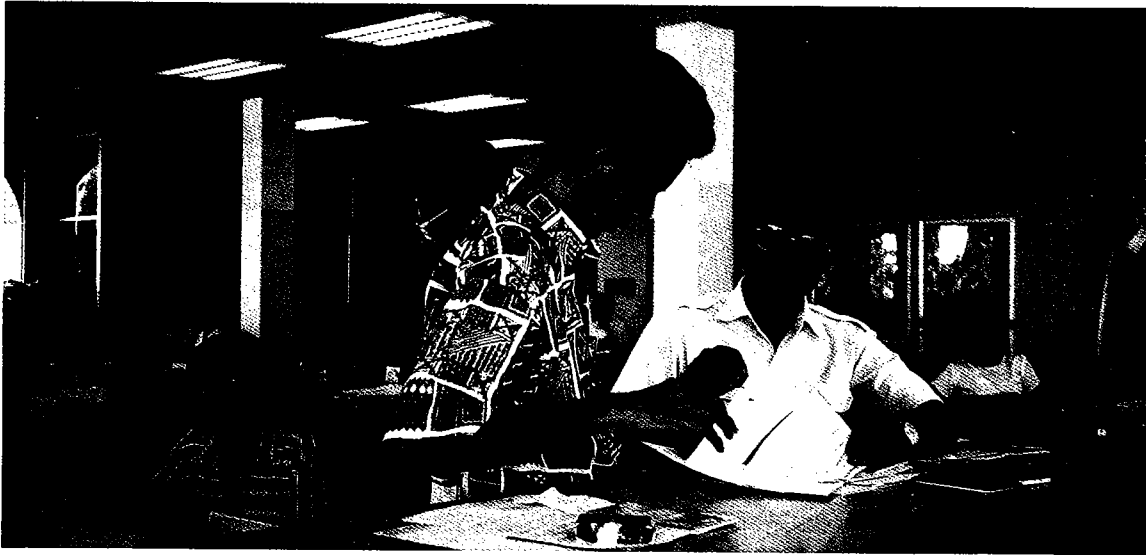
せて、約4万件となっています。そして、そのサブ・ローンを活用して農民が購入した主なものとしては、耕耘機約2万7千台、ポンプ約4千台、トラック等運搬機具約4千台などとなっています。なお、農民から返済された資金はリボルビング・ファンド^(注)として、同じ貸付要綱に従って再び農民に貸付けられることとなります。

ところで、これら農業金融が有効に機能するためには、BAACが確固たる経営基盤を有し、サブ・ローンを供与する際の審査能力のみならず、サブ・ローン供与後も的確な農民指導を行っていくことが重要です。そこで、以下では先ずBAACの概要について述べた後に、本借款がエンド・ユーザーである個人農家に対して、どのような貢献をしているのかを把握するために実施したサンプリング調査の結果を紹介します。

(注) リボルビング・ファンド：ツー・ステップ・ローンの場合、資金はOECF→開発金融機関→エンド・ユーザーと流れますが、融資期間は「OECF→開発金融機関」の方が、「開発金融機関→エンド・ユーザー」よりも長いのが一般的です。従って、開発金融機関はOECFに対し資金を返済するまで時間があるため、エンド・ユーザーから返済を受けた場合でも、その返済金を原資として再貸付を行うことが可能となります。このようにエンド・ユーザーに貸付られた資金は、OECFへの返済期限が到来するまでの間、貸付→回収→貸付といった具合に何回か回転することからリボルビング・ファンド(回転資金)と言います。



▲BAACローンを利用して購入された耕耘機。BAACの支店に展示するとともに、適切なアドバイスをすることによって農民への普及に努めています。



▲BAACの各支店における貸付業務はマニュアルに従って実施されています。

■BAACの発展の推移と業務内容

BAACは1947年に設立された協同組合銀行をその前身とし、1966年に農業・農協銀行法に基づき改組され現在に至っています。BAACが設立された1960年代中頃は、米とかメイズ等の商品作物に対する輸出需要が大きく、農民も輸出需要に敏感に反応し始めたため、農業の商業化が進展するに伴い農家の資金需要が増大していました。このような背景の下で、農家に短期資金を貸付ける公的金融機関の設立が社会的に要請されていたものと思われま

す。BAAC設立時の支店数は15店舗に過ぎませんでしたが、その後、各地の資金需要を調査しながら支店網を拡大していき、1989年の支店数は118店舗、出張所数も604カ所となっており、その結果、BAACは742郡(全国868郡の85%)において貸付業務が行えるようになってい

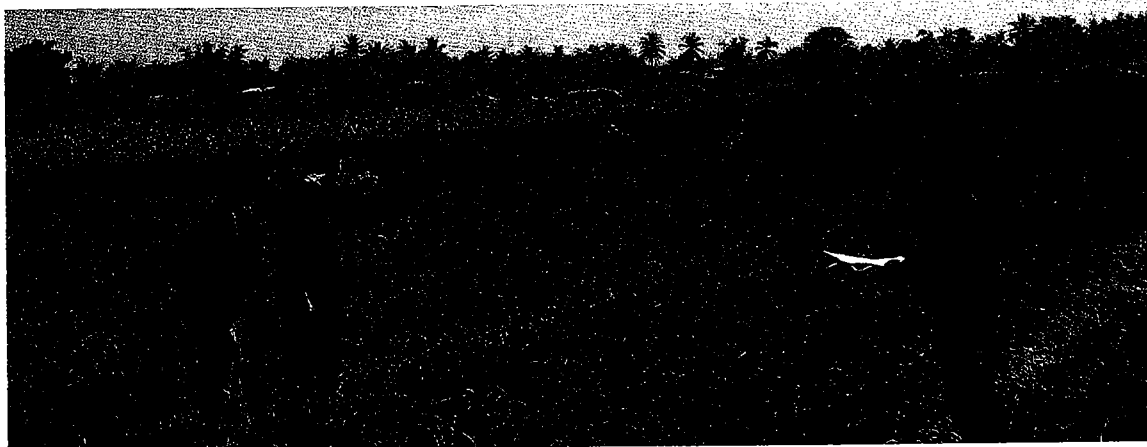
ます。それに伴い貸付対象農家数及び貸付残高も増加し、設立当初はそれぞれ4万5千戸、4億パーツであったのに対し、1989年には282万戸(BAACから直接貸

付ける農家190万戸、及び農業協同組合等を通じて間接的に貸付ける農家92万戸)、336億パーツにまで達しています。1989年における同国の農家総数は約520万戸とのことですから、1989年時点においては全国の約54%もの農家がBAACの貸付対象となっており、BAACが同国の農業セクターにおいて重要な役割を果たしていることが窺えます。

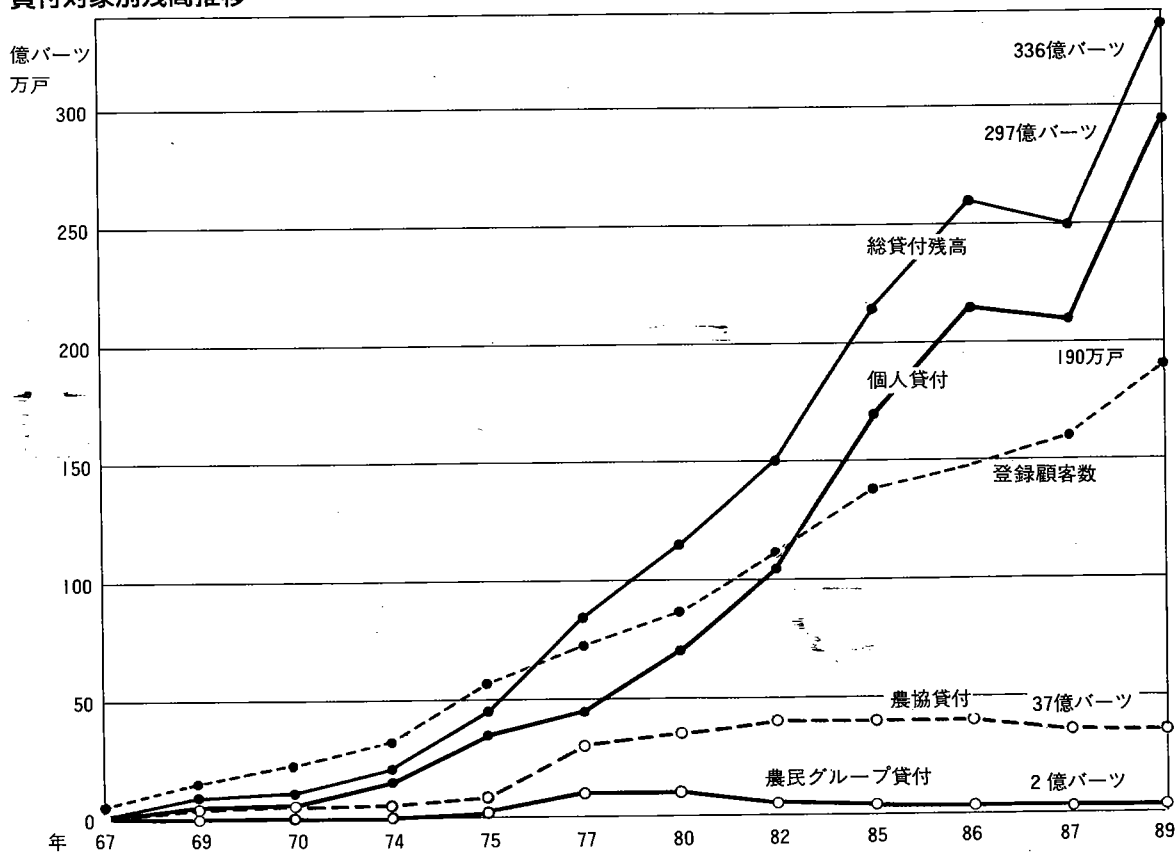
BAACの貸付業務はマニュアルに従って実施されています。具体的には、各地域の農業経済調査を行い、また、職員が各農家を訪問し、家族構成、資産、収入支出状況等について詳細なヒアリングを行った上で、経営意欲と能力があると認められた農家に対して貸付を行っています。また、貸付実行後も職員が各農家を巡回し、貸付資金の管理のみならず、購入された農業機械の運用維持管理状況を把握し、また農家経営に関する助言を行う等の側面からの支援をも実施しています。本ローンの貸付を受けた各農家からの返済状況は非常に良好ですが、これは上述のようにBAACが貸付審査から貸付実行後のフォローアップに至るまで、各農家に対してきめの細かい業務を展開して

いることが大きな要因となっているものと思われ
ます。

BAACの職員は貸付実行後も各農家を巡回し、貸付資金の管理のみならず、購入された農業機械の運用維持管理状況を把握するとともに、農家経営に関するアドバイスを行う等の側面から▼の支援も積極的に行っています。



貸付対象別残高推移



—中部タイのラムヤイさんの場合—

耕せないところが耕せた

氏名(年齢) : ラムヤイ・マンヨング (47才)
 住 所 : 中部・ナコンナヨク県
 土地所有面積 : 29ライ (4.6ha)
 1990年農業収入 : 8,075バーツ
 (同地区平均収入6,664バーツ)

ラムヤイさんは、基金7次借款によるBAACからのサブ・ローン24,000バーツ(約14万円)を借入れることによって、1987年に耕耘機を購入しました。その際のBAACからの借入条件は、金利が年9.8%、借入期間は5年間でした。

ラムヤイさんは29ライの耕作地を持っており、これを2頭の水牛を使って耕していましたが、多くの日数と労力を要し、年によっては3分の2ぐらいしか耕せない時もありました。そんなある日、BAACの出張所員が当地に来て、新しいローンの説明をするとの情報を近隣に住むBAACのメンバーより聞きつけ、近くの小学校で行われた説明会に出かけました。説明によれば、農機具の購入資金が安い金利で借りられるとのことから、耕耘機の購入を希望したところ、2、3日後に出張所員が自宅に来訪し、家族構成、収穫状況、現金収入、家屋資産等についてヒアリングが行われました。その後、申請書にサインをして提出してから2～3週間後に借入れの許可が通知され、指定された日にBAACナコンナヨク支店に出向くと、手続きが行われ、その日のうちに支店から紹介された店で耕耘機を購入することができました。

ラムヤイさんは耕耘機を使用するようになってからは、耕作が非常に楽になり、また毎年全土地を耕せるようになったことから、作付面積も増え生産高が多くなりました。加えて、自分が耕作をしない時には、耕耘機を賃貸しすることができ、

これにより副収入を得ることもできるようになりました。実際、昨シーズン(1990年)は洪水により、米が殆ど収穫できなかったため、この副収入は生活費として大いに役立ったとのこと。更に、ラムヤイさんは、耕耘機を牽引車として利用して物資を運搬したり、耕耘機のエンジンでポンプを作動して畑作物を栽培するなど、有効に利用しています。購入後は、BAACに対し借入金を返済しなければなりません。毎回の返済額を上回る収入を得ることができるようになり、借入期間の5年を3年で返済したことを誇らしげに語っていました。ラムヤイさんにBAACについて尋ねましたところ、まず、出張所員については3か月に一度の割合で来てくれ、非常に親切であり、よく農機具の使い方等の相談に乗ってくれるとのことでした。

ラムヤイさんは、基金サブ・ローンの返済が終わったあと、新たにBAACの通常の長期貸付で49,000バーツを借入れトラクターを購入し、現在返済中です。このようにラムヤイさんは基金サブ・ローンの借入をきっかけにして、農業機械を保有していくことによって、更なる収入の増加を図っています。

—北部タイのワン・パサワリットさんの場合—

乾期に歓喜

氏名(年齢) : ワン・パサワリット (60才)
 住 所 : 北部・チェンマイ県
 土地所有面積 : 40ライ (6.4ha)
 1990年農業収入 : 38,000バーツ
 (同地区平均収入8,652バーツ)

ワンさんは、基金6次借款によるBAACからのサブ・ローン12,000バーツ(約8万円)を借入れることによって、1986年にポンプを購入しまし

た。その際のBAACからの借入条件は、金利が年9.8%、借入期間は4年間でした。

ワンさんは雨期に米作を行い、生活の糧としておりましたが、乾期には水を引くことができず、何も栽培できないことから40ライの土地を遊ばせていました。8年前に耕耘機を買うためにBAACのメンバーになり、それ以降BAACの出張所員が時折来て、栽培方法や耕耘機の使い方を話しては帰っていきました。耕耘機の返済が終わる頃、出張所員に『どうして乾期に何も作らないのですか』と聞かれ、水がないことを告げると、その出張所員は『近くに溜め池があるのでポンプを購入してみてもどうですか。』と勧めました。やっとローンの返済が終わりかけていた頃だったので、借入をすることに少し躊躇していましたが、出張所員がまた来て、『今度、ポンプ購入資金が安い金利で借りられ、借り手の条件にワンさんは問題ありませんから、是非購入しては。』と再度勧められ、ポンプ購入を決めました。

ワンさんはポンプを購入してからは、乾期に出張所員の勧めでタバコをつくりはじめました。当初、タバコの栽培の仕方が分からず苦慮しましたが、出張所員からワンさんと同じようにポンプでタバコ栽培をしている人を紹介され、その人から、手取り足取り教えて貰い、収穫できるようになったそうです。2年目からは、タバコに加え、野菜や果樹も作りはじめ、栽培品目や栽培面積を徐々に増やしているとのことでした。この乾期に作物栽培ができるようになってからは、ワンさん一家の農業収入が倍増し、BAACに対する借入金も借入期間の4年を3年で返済できたと喜んでいました。

また、今までは、乾期に5人の息子のうち、中学校を出た2人がバンコクに出稼ぎに出ていましたが、一昨年からは、出稼ぎに行く必要がなくなり、1年を通して家族が一緒に暮らせるようになったことを大変喜んでいました。

ワンさんは、今まで種子や肥料を購入する際にはBAACの短期借入れに頼っていましたが、基金サブ・ローンの返済が終わったあとは、借入金返済分でこれらを賄うことができるようになりました。昨年からは、借入金が一切なくなり、今年の初めからはBAACに貯金することができるようになり、念願のBAAC預金通帳を持つことができました。

今回実施したサンプリング調査によると、本ローンを利用して農業機械を購入したことが、当該農家にとって非常に良い結果をもたらしていることが認められました。事業概要で述べたように、本ローンは非常に多くの農家に利用されていることから、その全ての個別状況を把握することは困難ですが、返済状況が非常に良好であることから判断すると、概ねサンプリング調査と同様の結果が得られるものと推察されます。そしてOECFは1975年以降、一貫してBAACが必要とする長期資金を供与してきており、その額はBAACの長期貸付残高の約5割を占めていることに鑑みると、自立農民を支援する制度金融機関を通じて、同国の農業セクターの発展に少なからず貢献してきていると言えるでしょう。

(評価時期：1992年2月)